

2026年6月18日
株式会社アマダ

マシンの資源循環モデルを構築

板金加工機械の回収・再生と資源の再利用を融合し、持続可能なモノづくりへ



株式会社アマダ（神奈川県伊勢原市、代表取締役社長執行役員：山梨 貴昭）は、板金加工機械の回収・再生ビジネス（リバースビジネス）において、当社の強みである直販・直サービス体制を生かし、マシンの回収から資源化、再調達までを完結させる独自の資源循環（サーキュラーエコノミー）の取り組みを、2026年6月より本格的に開始しました。

当社は2026年度から開始した「中期経営計画2030」のサステナビリティ戦略において、サーキュラーエコノミーをマテリアリティ（重要課題）に特定しています。今回の取り組みは、その持続可能なモノづくりに向けた具体的な施策の一つとして、資源リサイクルパートナー企業および電炉鉄鋼メーカーとともに、国内における循環連携体制を金属加工機械業界で初めて構築したものです。

アマダは従来から、自社で下取りなどにより回収したマシンを整備し、中古再生機として再び市場へ提供するリバースビジネスを推進してきました。提供する中古再生機は、高品質な整備体制とサービスネットワークによる保守サポートの信頼性により、多くのお客さまに活用いただいています。

今回の取り組みでは、回収マシンの資源化への仕組みをさらに高度化させました。従来、保守が困難な旧型機等は、市場への再流通を制限するためリサイクル資源として処理してきました。今後は自社製品の原材料として循環させることで、これらマシンの資源価値を最大限に高めます。初年度は年間約1,000トンの鉄資源の調達を見込んでいます。

具体的には、当社の責任において再生が困難と判断されたマシンは、パートナー企業による解体・選別を経て、電炉鉄鋼メーカーの電気炉で高品質な鋼材へと再生されます。当社はこの再生された電炉鋼材を自社製品の製造資材として再び調達することで、国内において自社資源を自社

製品へ還す循環の仕組みを形成しました。

さらなる展開として、本モデルを板金加工機械以外のマシンへも適用するとともに、非鉄金属や周辺機器の資源回収・循環に向けた検討を順次進めることで、アマダグループ全体で持続可能なモノづくりを推進してまいります。

当社は今後も、製品の誕生から再生までを見据えたサステナビリティ経営を通じて、資源の有効活用とお客さまの持続的な成長に貢献してまいります。

■本資源循環モデルの実施概要

開始時期:2026年6月

開始エリア:首都圏および東海地域を中心とした回収済みマシンから開始(順次拡大予定)

初年度調達量:年間約1,000トン(鉄資源)

以上

※ 掲載の情報は予告なく変更される場合があります